

# 井伊直弼・年表

年代	年齢	事項
文化12年(1815) 10月29日	1	彦根城の下屋敷・榎御殿で、前藩主・井伊直中の14男として生まれる。
文政10年(1827)	13	このころから、清涼寺に通って、禅などを習う。
天保2年(1831)	17	父井伊直中が死去。埋木舎に移り住む。
弘化2年(1845)	31	茶の湯の一派をたてることを決意し、「入門記」を著す。
弘化3年(1846) 2月18日	32	兄直元が死去し、彦根藩の世継ぎ(次期藩主)となる。
弘化4年(1847) 2月15日	33	彦根藩が相模国海岸警衛を命じられる。
嘉永元年(1848) 4月20日	34	直弼の子、愛磨(のちの14代藩主直憲)、生まれる。
嘉永3年(1850) 11月21日	36	兄直亮が死去し、彦根藩主となる。
嘉永4年(1851) 6月	37	藩主となって初めて彦根に帰国。
嘉永6年(1853) 6月3日	39	アメリカ合衆国から、ペリーが浦賀に來航する。
8月10日		幕府の諮問に対し、ペリー処置の最初の意見書を提出。
安政4年(1857) 10月21日	43	同29日に、2度目の意見書を提出し、開国論を述べる。
安政5年(1858) 4月23日	44	アメリカ合衆国総領事ハリスが江戸城で將軍と謁見する。
6月19日		この年、「茶湯一会集」を完成させる。
8月8日		幕府の大老となる。
9月～ 12月		幕府、日米修好通商条約を調印。幕府の政治を批判した孝明天皇の勅定が幕府・水戸にくだる。
安政7年(1860) 3月3日	46	安政の大獄 孝明天皇から条約調印了解の勅定がくだされる。
		水戸浪士などにより、桜田門外で暗殺される。

※日付は、旧暦で表しています。  
※年齢は、当時一般的に使っていた「かぞえ年」で表しています。

(直弼の美兄で直亮の養子)が死去したため、直弼は直亮の養子となり、世継ぎとなります。

その4年後に直亮が亡くなり、彦根藩13代藩主となりました。

藩主となった直弼は、彦根に戻ってくる、民意をくみ上げるため、しばしば村人の生活を見て回りまわした。これを巡見といいますが、直弼は、この巡見を歴代の藩主のなかでも、数多く広範囲に行っています。その記録を残す日記には、病気の人があれば、同行の医師に命じて診断させたことが書かれています。

また、直亮が残したお金を、家来や彦根藩領に住む人に分け与えました。このときの金額は、彦根藩の収入と同じくらいの額で、かなりの高額を分け与えました。



▲中堀沿いに立つ埋木舎

直弼は、幼いころから、読み書き、道徳となる儒教、剣道、弓道、乗馬などを彦根藩の学者や指南役から学びました。これらは、武士にとって大事な科目です。これに加えて、埋木舎に住んだ時期には、和歌や茶の湯、居合(剣術の一種)をはじめとする文武両道にわたり、修行を積みました。

**井伊直弼 藩主になる**

しかし、直弼が32歳の時、12代藩主の直亮の世継ぎであった直元

井伊直弼は、彦根藩11代藩主直中の14男として、彦根城の一角にある「榎御殿」で生まれました。直弼が生まれた時は、すでに実兄である直亮が藩主になっており、家を継ぐ立場には、ありませんでした。

その後、父直中が死去したため、直弼は、17歳から世継ぎ(次期藩主)になる32歳まで、埋木舎(下写真)で過ごし、大名のあとを継げるのは、男子一人だけで、ほかの男子

## 思いがけず表舞台にたった井伊直弼の誕生

は、ほかの家の養子になり、あとを継ぐことが、社会で活躍できる方法でした。しかし、直弼には養子となる話があっても実現せず、彦根藩から、生活費を与えられて暮らししか方法がありませんでした。その時期に住んだのが、埋木舎です。埋木舎は、世の中の出世や競争とは離れて、この屋敷に埋もれて、学問・文武の芸に励もうという気持ちを込めて、直弼自身が付けた名前です。

### ひこね21世紀創造プラン

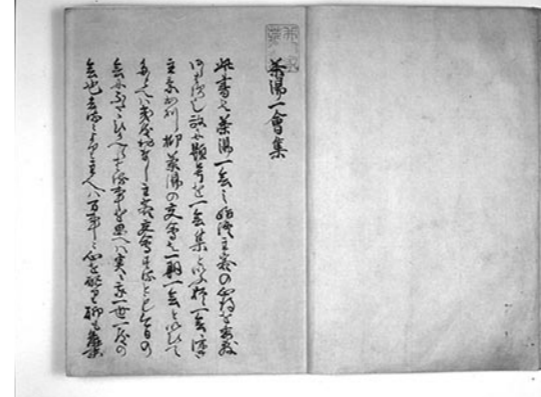
市民がつくる  
安心と躍動のまち  
彦根

1. 人権が尊重され、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり
2. 良好な環境が整った、快適で安全・安心なまちづくり
3. 活力ある産業に満ちた、にぎわいあふれるまちづくり
4. 明日の彦根市を担う人を育(はくく)むまちづくり
5. 人とひととの交流をひろげ、市民文化を創造するまちづくり

## 井伊直弼に迫る 特集

# 開国に揺れる時代を生きた

# 大老・井伊直弼



今年、井伊直弼が大老に就任し、日米修好通商条約が締結されて、150周年を迎えます。

彦根市では、6月4日から平成22年3月までの約2年にわたって、「井伊直弼と開国150年祭」を開催します。150年祭では、日本を開国に導いた井伊直弼を顕彰するとともに、開国の大きな要因となった日米修好通商条約締結に焦点を当てます。

今回は、日米修好通商条約締結に関わった井伊直弼について、特集します。

問い合わせ先 彦根城博物館  
物館 ☎ 22-6100番、  
FAX 22-65200番

▲金亀児童公園にある井伊直弼の銅像(左上)。直弼の茶の湯の集大成である「茶湯一会集」(重要文化財)彦根藩井伊家文庫(左下)。直弼が手作りの「楽焼蓋置」(井伊家伝来美術品)(右上)。直弼が用いた甲冑である「朱漆塗紅系威縫延腰取一枚胴具足」(井伊家伝来美術品)(右下)

(井伊直弼銅像は除き、すべて彦根城博物館蔵)